

2022年3月期 通期

クリモトグループ^o決算説明会



KURIMOTO

目次

1. 会社概要
2. 2022年3月期実績
3. 2023年3月期業績予想
4. クリモトグループの取り組み
5. 株主還元・その他

参考資料

1. 会社概要

1 - 1 会社概要



創立：
1909年2月2日（明治42年）

設立：
1934年5月10日（昭和9年）

代表者：
代表取締役社長 菊本 一高

資本金：
311億円（2022年3月末現在）

従業員数：
2,120名（2022年3月末現在、連結）
1,333名（2022年3月末現在、単体）

1 - 1 会社概要

事業所：

○工場・物流拠点（計13か所）
 大阪府内4か所
 滋賀県、茨城県など

○国内営業拠点（8か所）
 大阪、東京、札幌、仙台、
 名古屋、広島、福岡、沖縄

○海外拠点（2か所）
 ヨーロッパ事務所（ドイツ）、
 ジャカルタ事務所（インドネシア）



関係会社：

栗本商事(株)、ヤマトガワ(株)、(株)本山製作所、(株)ケイエステック、
 ジャパンキャスティング(株)、Readco Kurimoto、Kurimoto USA<米国>、
 栗鉄（上海）貿易有限公司<中国>など 計21社

1 - 1 会社概要

経営理念

私たちは、全てのステークホルダーの期待と信頼に応え、常に最適なシステムを提供し、『夢ある未来』を創造します。
～社会インフラ・産業インフラへの最適なシステムの提供～

経営方針

「四方よし」の精神で将来にわたって、社会へ貢献できる企業グループを目指す。

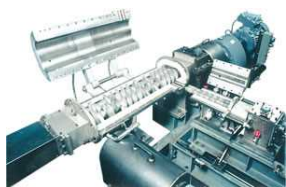
1-2 事業ドメイン

社会 インフラ

上下水道、道路、通信、交通など
人・生活において基盤となる施設



メーカーの生産活動に必要な
機械、プラントなどの製造設備



産業設備

1 - 3 事業部門の構成と主な製品（栗本鐵工所）

事業セグメント	主な事業ドメイン	事業部	主な製品	主な需要先
ライフラインセグメント	社会インフラ	パイプシステム	ダクタイル鉄管類	水道事業体
		バルブシステム	水道用バルブ、産業バルブ	水道事業体、製鉄・電力等各種プラント、ポンプメーカー
機械システムセグメント	産業設備	機械システム	鍛造プレス	自動車関連メーカー
			粉体処理機	カーボン、エンブラ、二次電池関連メーカー 他
			プラントエンジニアリング	各国の資源開発事業体 プラントエンジニアリング企業
		素形材エンジニアリング	耐磨耗鋳物、破碎機	鉄鋼、セメント、電力、砕石関連企業
産業建設資材セグメント	社会インフラ 産業設備	建材	建築資材	管材商社、空調設備業者、ゼネコン等
		化成品	FRP(M)製品	国・地方公共団体、電力会社、ゼネコン、フィルム関連メーカー

1 - 4 中期3カ年経営計画（定量目標）

（単位：百万円）

	2020年度 （実績）	2021年度 （計画）	2022年度 （計画）	2023年度 （計画）
売上高	116,596	107,000	115,000	120,000
営業利益	4,673	3,500	4,500	5,500
売上高 営業利益率	4.0%	3.3%	3.9%	4.6%
ROE	5.2%	3.6%	4.8%	5.4%

民需分野において、2020年度に大型工事進行基準物件の売上計上が集中した反動ならびに一部新型コロナウイルス感染症による一時的な投資の手控えによる影響があり、2021年度の売上、営業利益は一時的に減少する計画としていた。

2. 2022年3月期実績

2 - 1 決算概要

(単位：百万円)

<連結>

	2021.3 実績 (A)		2022.3 実績 (B)		前年比 (B-A)	2022.3 期初予想値※ (C)		予想比 (B-C)
売上高	116,596	-	105,954	-	▲ 10,642	107,000	-	▲ 1,046
営業利益(率)	4,673	(4.0%)	4,172	(3.9%)	▲ 501	3,500	(3.3%)	672
経常利益(率)	4,583	(3.9%)	4,179	(3.9%)	▲ 404	3,500	(3.3%)	679
当期純利益(率)	3,174	(2.7%)	2,917	(2.8%)	▲ 256	2,300	(2.1%)	617
ROE	-	(5.2%)	-	(4.5%)	(▲0.7pt)	-	-	-

※直近予想値 (C) : 2021年5月13日公表値

売上高

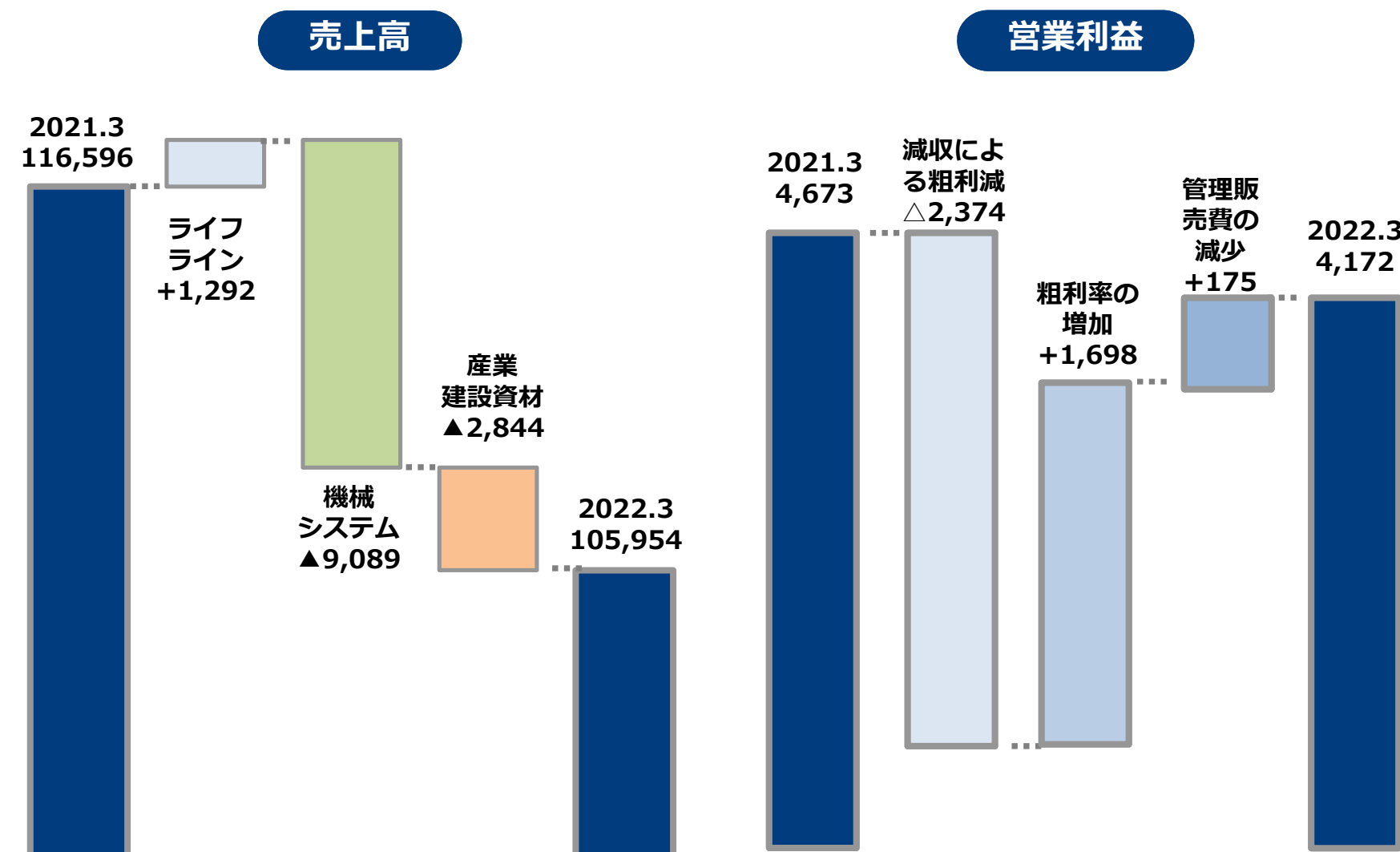
官需分野は、前年同期比並みの売上を維持しているものの、民需分野にて新型コロナウイルスの影響による前年度受注減により大型物件の出荷が無かったことなどにより、前年度比 10,642百万円の減収。

営業利益

販売価格の改善および販売管理費の削減に努めたものの、売上高減少にともなう粗利益減などにより、501百万円の減益。

2-2 売上高・営業利益比較

(単位：百万円)



2-3 セグメント別業績

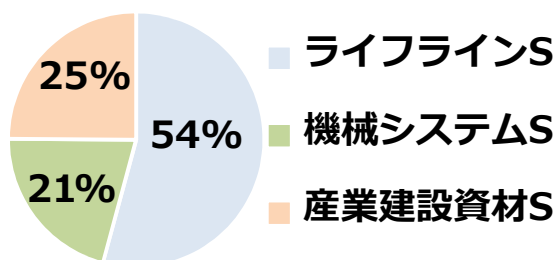
(単位：百万円)

		2021.3 実績 (A)	2022.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2022.3 期初予想値 (C)	予想比 (B-C)
ライフライン セグメント	売上高	56,185	57,478	1,292	54,200	3,278
	営業利益	3,087	3,016	▲ 71	2,400	616
	(率)	(5.5%)	(5.2%)	(▲0.3pts)	(4.4%)	(0.8pts)
機械システム セグメント	売上高	31,184	22,095	▲ 9,089	23,300	▲ 1,205
	営業利益	610	437	▲ 173	200	237
	(率)	(2.0%)	(2.0%)	(0.0pts)	(0.9%)	(1.1pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	29,226	26,381	▲ 2,844	29,500	▲ 3,119
	営業利益	1,074	1,040	▲ 33	900	140
	(率)	(3.7%)	(3.9%)	(0.2pts)	(3.1%)	(0.8pts)

※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

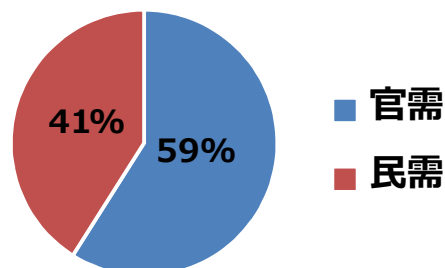
※2022.3期初予想値 (C) : 2021年5月27日公表 2021年3月期 決算説明資料

セグメント別売上高構成比率



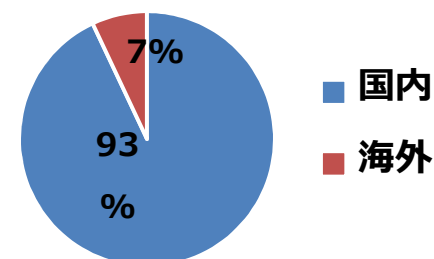
※2022.3実績 (連結)

需要分野 (官・民) 構成比率



※過去3ヶ年平均値 (連結)

国内および海外売上高構成比率



※過去3ヶ年平均値 (単体)

2-4 事業セグメント別概況

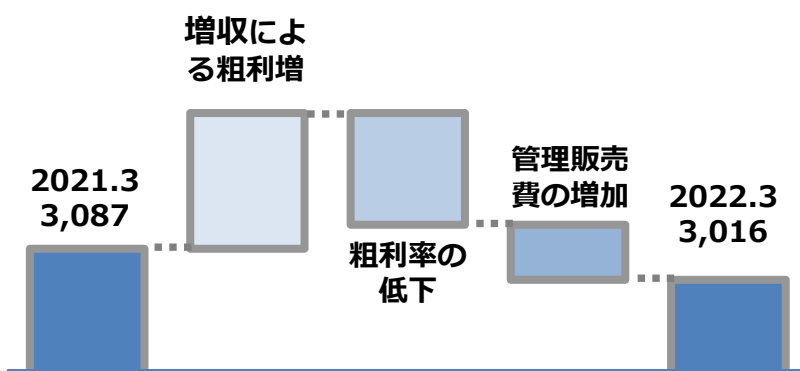
ライフラインセグメント

(単位：百万円)

	2021.3 実績 (A)	2022.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2022.3 期初予想値※ (C)	予想比 (B-C)
売上高	56,185	57,478	1,292	54,200	3,278
営業利益	3,087	3,016	▲ 71	2,400	616
(率)	(5.5%)	(5.2%)	(▲0.3pts)	(4.4%)	(0.8pts)

※2022.3期初予想値 (C) : 2021年5月27日公表 2021年3月期 決算説明資料

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

パイプシステム部門で主力のダクタイル鉄管等の出荷量が増加したことに加え、バルブシステム部門では子会社の民需向けの出荷が増加したことなどで、前年度比1,292百万円の増収

営業利益

販売価格の改善やコストダウン活動が粗利益の増加に寄与したものの、原材料高騰の影響による粗利率の低下などにより前年度比71百万円の減益

2-4 事業セグメント別概況

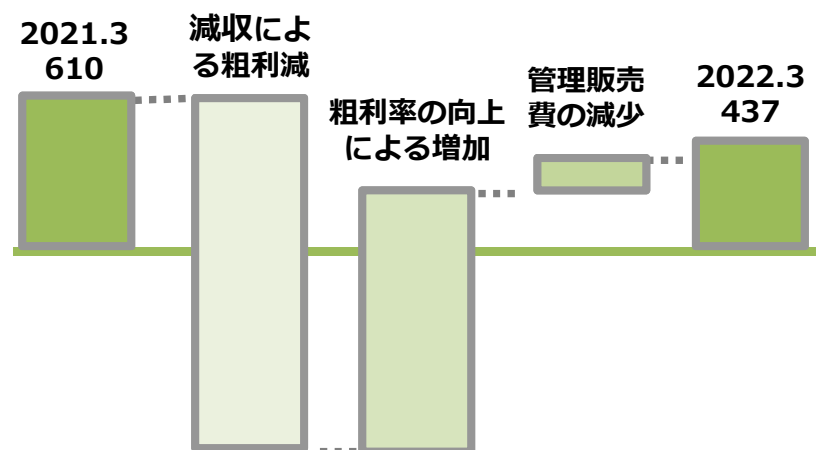
機械システムセグメント

(単位：百万円)

	2021.3 実績 (A)	2022.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2022.3 期初予想値※ (C)	予想比 (B-C)
売上高	31,184	22,095	▲ 9,089	23,300	▲ 1,205
営業利益 (率)	610 (2.0%)	437 (2.0%)	▲ 173 (0.0pts)	200 (0.9%)	237 (1.1pts)

※2022.3期初予想値 (C) : 2021年5月27日公表 2021年3月期 決算説明資料

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

機械部門において、新型コロナウイルス感染拡大の影響で前年度受注が減少したことで大型物件の売上が無かったこと、素形材部門において、破砕機を中心に出荷が減少したことなどにより、前年同期比9,089百万円の減収

※40ページ参考資料5「機械Sセグメント受注・売上の傾向」参照

営業損益

機械部門で大きく減収となったものの、プラント案件工事の採算が改善されたことなどで減益幅が縮小し、前年同期比173百万円の減益

2-4 事業セグメント別概況

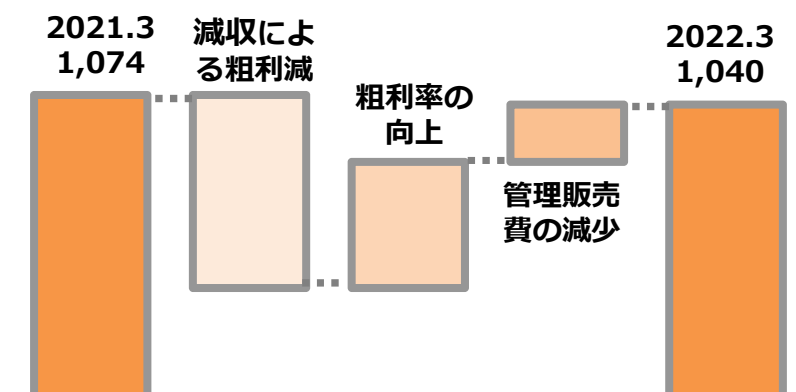
産業建設資材セグメント

(単位：百万円)

	2021.3 実績 (A)	2022.3 実績 (B)	前年比 (B-A)	2022.3 期初予想値※ (C)	予想比 (B-C)
売上高	29,226	26,381	▲ 2,844	29,500	▲ 3,119
営業利益	1,074	1,040	▲ 33	900	140
(率)	(3.7%)	(3.9%)	(0.2pts)	(3.1%)	(0.8pts)

※2022.3期初予想値 (C) : 2021年5月27日公表 2021年3月期 決算説明資料

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

建材部門の子会社において売上が減少したことに加え、化成品部門でも電力関係製品などで売上が減少したことなどにより、前年度比2,844百万円の減収

営業利益

販売価格の改善および販売管理費の減少に努めたものの、減収に加え原材料の高騰などにより、前年度比33百万円の減益

2-5 財務状態の概況

<連結>

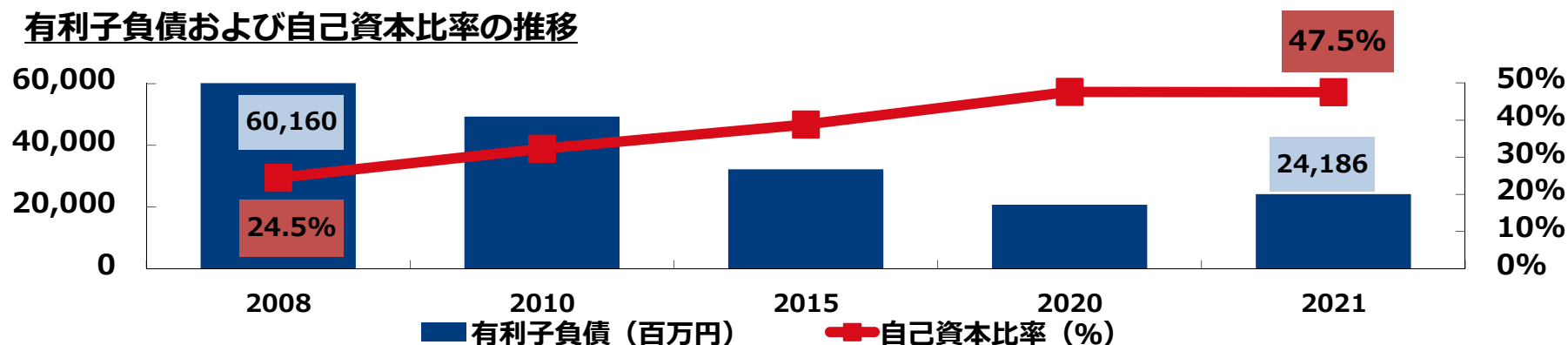
(単位：百万円)

	2021.3末	2022.3末	増減
現金及び預金	20,418	21,358	+940
その他流動資産	62,216	67,791	+5,575
流動資産 合計	82,634	89,149	+6,515
固定資産 合計	51,843	50,573	▲ 1,270
資産 合計	134,477	139,722	+5,245
流動負債 合計	57,543	61,846	+4,302
固定負債 合計	11,822	10,256	▲ 1,566
負債 合計	69,366	72,102	+2,736
純資産 合計	65,111	67,619	+2,508
負債純資産 合計	134,477	139,722	+5,245

主な項目の増減

■ 流動資産	
・ 電子記録債権の増加	+ 1,588
・ 仕掛品の増加	+ 3,610
■ 固定資産	
・ 繰延税金資産の減少	▲ 703
■ 流動負債	
・ 支払手形及び買掛金の減少	▲ 2,290
・ 電子記録債務の増加	+ 3,826
・ 短期借入金の増加	+ 1,930
■ 固定負債	
・ 長期借入金の減少	▲ 1,022
・ 退職給付に係る負債の減少	▲ 475

有利子負債および自己資本比率の推移



2-6 連結キャッシュフロー

〈連結〉

(単位：百万円)

区分 (細分項目は主な項目のみ)	2021.3期	2022.3期
売上債権の増減額 (▲は減少)	▲ 3,942	88
棚卸資産の増減額 (▲は減少)	4,017	▲ 4,057
仕入債務の増減額 (▲は減少)	▲ 867	1,711
税金等調整前当期純利益	4,538	4,381
減価償却費	2,520	2,711
営業活動によるキャッシュフロー	5,907	2,813
有形及び無形固定資産の取得による支出	▲ 4,270	▲ 2,488
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 4,034	▲ 2,455
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 1,815	482
現金及び現金同等物の増減額	28	939
現金及び現金同等物期末残高	20,359	21,299
有利子負債期末残高	22,725	24,186

3. 2023年3月期業績予想

3 - 1 2023年3月期 業績予想

(単位：百万円)

連結	2022.3 実績 (A)		2023.3 予想 (B)		前年比 (B-A)	
売上高	105,954	-	115,000	-	9,406	-
営業利益(率)	4,172	(3.9%)	4,500	(3.9%)	328	(▲0.0pts)
経常利益(率)	4,179	(3.9%)	4,500	(3.9%)	321	(▲0.0pts)
当期純利益(率)	2,917	(2.8%)	3,200	(2.8%)	283	(0.0pts)
ROE (率)	-	(4.5%)	-	(4.8%)	-	(0.3pts)

当社グループの主要事業セグメントは官需分野で底堅く、民需分野においても新型コロナウイルス感染症による一時的な投資の手控えから機械部門を中心に回復傾向にあり、増収増益の見込み。

3 - 2 2023年3月期 業績予想 (セグメント別)

(単位：百万円)

連結		2022.3 実績 (A)	2023.3 予想 (B) ※1	前年比 (B-A)	2023.3 中計当初計画 (C) ※2	計画修正 (B-C)
ライフライン セグメント	売上高	57,478	55,700	▲ 1,778	54,300	1,400
	営業利益	3,016	2,800	▲ 216	2,500	300
	(率)	(5.2%)	(5.0%)	(▲ 0.2pts)	(4.6%)	(0.4pts)
機械システム セグメント	売上高	22,095	29,500	7,405	28,600	900
	営業利益	437	1,000	563	700	300
	(率)	(2.0%)	(3.4%)	(1.4pts)	(2.4%)	(1.0pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	26,381	29,800	3,419	32,100	▲ 2,300
	営業利益	1,040	700	▲ 340	1,300	▲ 600
	(率)	(3.9%)	(2.3%)	(▲ 1.6pts)	(4.0%)	(▲ 1.7pts)

ライフラインセグメント：北海道での震災復興事業終了、原材料費の高騰の影響などにより、減収減益の見込み

機械システムセグメント：新型コロナウイルス感染症による一時的な投資手控えからの回復などにより、増収増益の見込み

産業建設資材セグメント：道路橋梁分野、消音分野での売上増を見込むが、原材料高騰、工事部門での前年度好業績の反動により増収減益の見込み

※1 2022年5月13日現在の予想数値

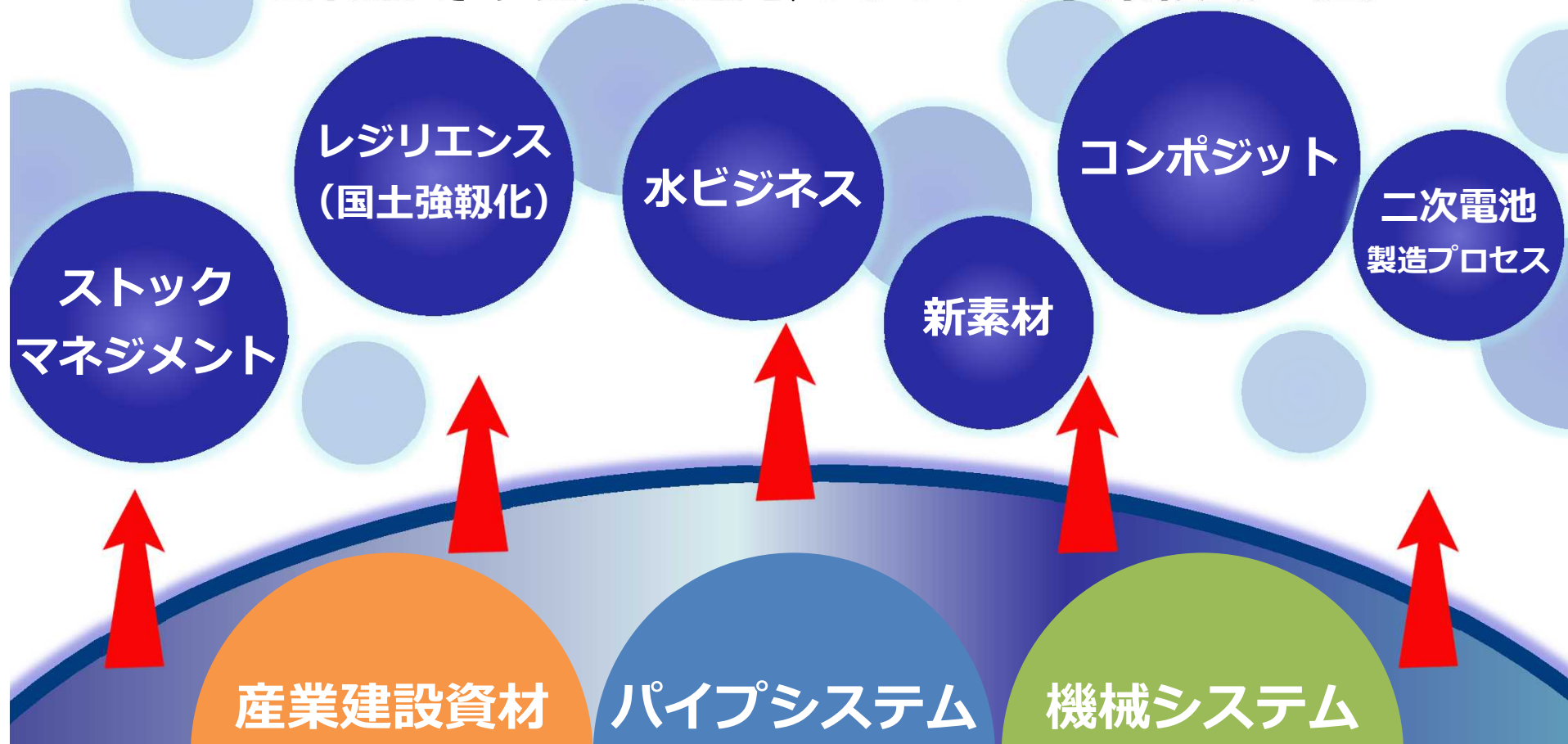
※2 2021年5月27日公表「新中期3カ年経営計画」

※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

3-3 事業の方向性

前中期3カ年経営計画

事業基盤を確立しつつ、新たな事業規模拡大にむけて、
これまでの境界線を越えて6つの事業領域へ注力



3-4 事業の方向性 (社会インフラ)

中期3カ年経営計画

水ビジネス

レジリエンス
(国土強靱化)

事業の方向性① :
国土強靱化・水ビジネスに向けて、
最適なソリューションを提供する

上下水道

技術者不足などを背景とした
設計施工一括発注案件の増加

ライフラインを支える管路に
向けた設計・施工・調査・
メンテナンスなどの
ソリューションの提供

道路・橋梁

道路構造物の老朽化による
維持補修需要の急増

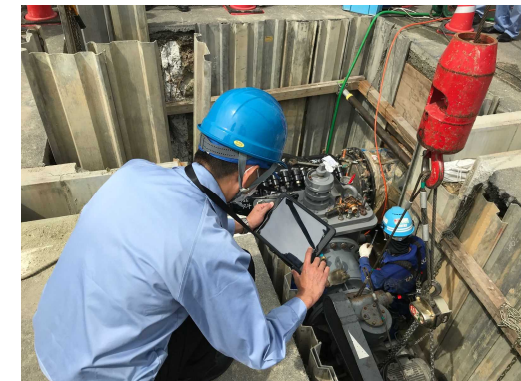
高速道路・橋梁の維持管理・
メンテナンスに貢献する
新技術や施工などの
ソリューションの提供

3 - 4 事業の方向性 (社会インフラ)

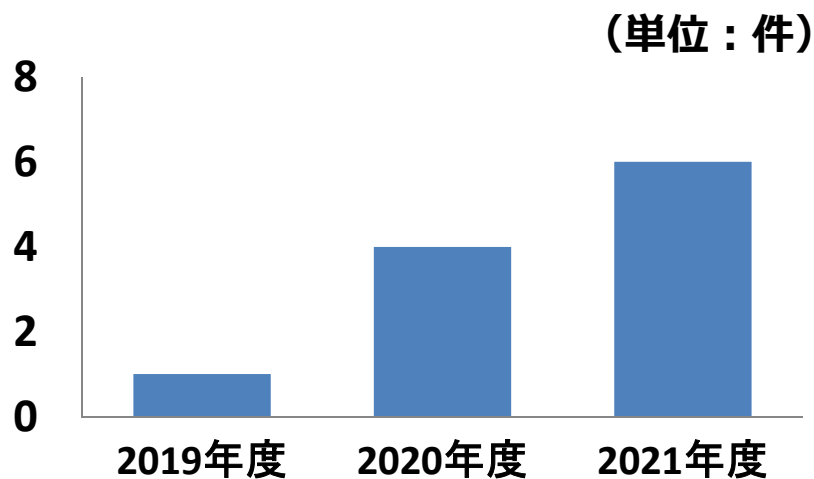
水ビジネス

● 上水道管路DB (Design Build) 方式

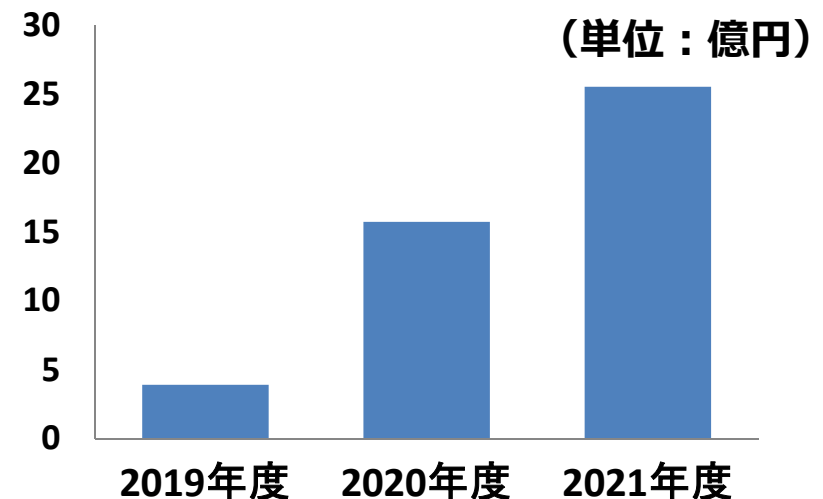
パイプシステム事業部およびグループ会社
(クリモトパイプエンジニアリング) による
クリモトグループ一貫となった営業・施工
体制の強化



● 累計契約件数



● 累計契約金額



※Design Build (= 設計・施工一括発注方式) ※受注案件詳細は参考資料を参照

3-4 事業の方向性 (社会インフラ)

● 道路分野におけるFRP（繊維強化プラスチック）材の採用拡大

FRP検査路

- ・ 高耐久性
 - 錆びによる劣化がない
- ・ 施工効率化
 - 主桁・床版一体化構造、軽量化による
工事現場での施工性向上
- ・ 安心・安全
 - 滑り止め仕様による安全性向上

● 採用実績



常盤自動車道
本名川橋（鋼上部工）工事 など

レジリエンス



3 - 4 事業の方向性 (産業設備)

中期3カ年経営計画

二次電池
製造プロセス

コンポジット

事業の方向性② :
脱炭素社会の実現に向けて、
最適なソリューションを提供する

自動車などの移動体

自動車のEV化に向けた
世界規模での活動加速

二次電池市場における
連続的大量生産製造プロセスに
向けた革新的技術の提供

軽量化・低燃費化に
向けた軽量かつ高強度な
素材の需要増加

軽量化に寄与する高機能樹脂およ
びコンポジットの連続生産システ
ム、コンポジット部材の提供

3 - 4 事業の方向性 (産業設備)

● 二次電池関連分野での 連続式二軸混練機拡販

電極スラリー混練工程への連続混練機適用による
混練時間短縮、自動化が可能

→ 電池製造工程全体を効率化

カーボンニュートラルに向けたEV化の流れに
おいて、導入拡大に向け活動強化

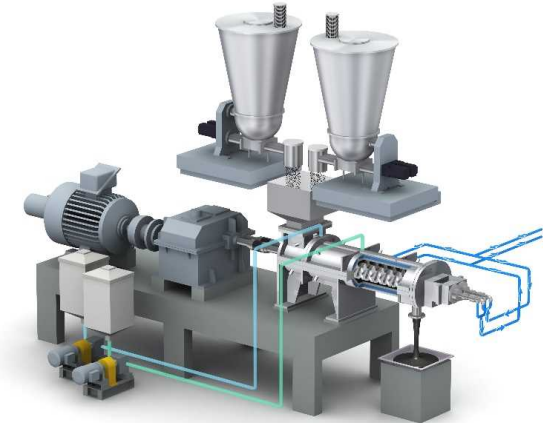
● CFRP (炭素繊維強化プラスチック)、 GFRP (ガラス繊維強化プラスチック)

自動車・建築・土木分野における軽量化ニーズ

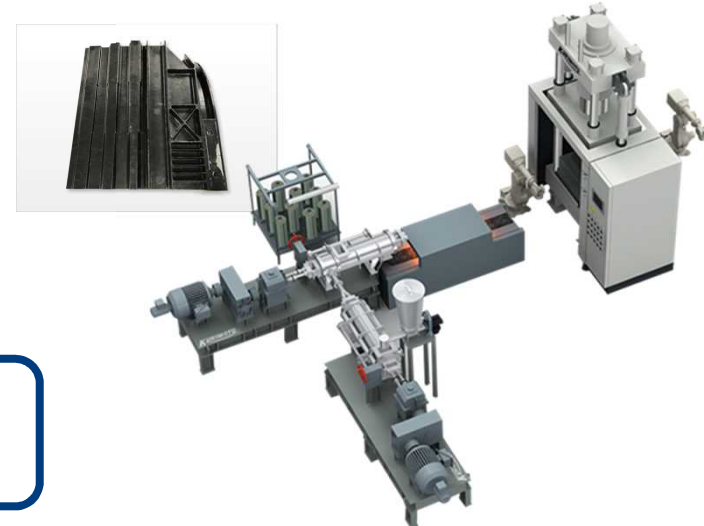
→ 高強度な軽量素材の提供

成形品 (パーツ) から製造設備 (プロセス) まで
お客様のニーズに合わせて提供が可能

二次電池製造プロセス



コンポジット



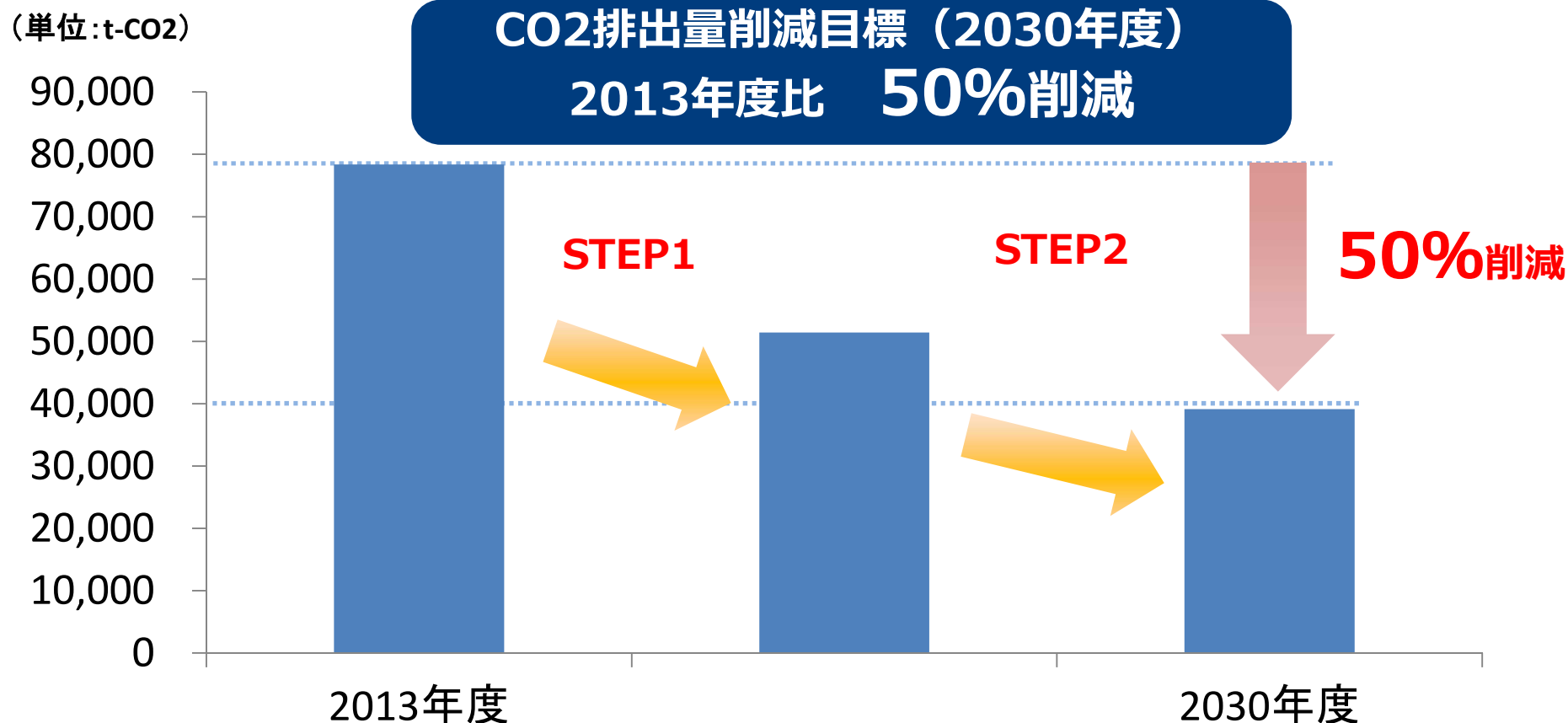
4. クリモトグループの取り組み

4-1 クリモトグループの取り組み

CO2排出量削減の推進

Environment

2050年カーボンニュートラルに挑戦するため、
2030年CO2削減目標を掲げ、以下の2つのSTEPで達成を目指す



※上記数値は全て栗本鐵工所単体でのScope1、Scope2の合計

4-1 クリモトグループの取り組み

CO2排出量削減の推進

Environment

2050年カーボンニュートラルに挑戦するため、
2030年CO2削減目標を掲げ、以下の2つのSTEPで達成を目指す

STEP 1

本社を含む関西エリアの事業所、生産拠点などを中心に使用電力を再生可能エネルギー由来のカーボンフリー電力へ切り替えるなど、Scope2（エネルギー起源の間接排出）のCO2排出量削減を実施。

STEP 2

省エネ機器への更新などに加え、生産性向上に向けた設備投資時にCO2排出削減に寄与する生産体制、燃料転換を行い、Scope1（直接排出）のCO2排出量削減を実施。

4-2 クリモトグループの取り組み

令和3年度「なでしこ銘柄」に選定

Social

<具体的な取り組み>

- ・ 取締役や監査役など役員への女性の積極的な登用
- ・ 新任基幹職を対象としたダイバーシティマネジメント研修の実施
- ・ 在宅勤務制度や育児短時間勤務など、柔軟な働き方を実現する制度の策定・利用推進
- ・ 男性の育児休業・配偶者出産休暇の取得推進



劇団四季 「こころの劇場」への協賛を開始

2022年度より地域貢献活動の一環として
劇団四季が全国の小学生をミュージカルに
無償で招待する取り組み

「こころの劇場」大阪府公演への協賛を
開始しました。

※2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、
動画配信版として実施予定。



※2019年度公演より 撮影：阿部章仁

4-3 クリモトグループの取り組み

Governance

社外取締役の増員

社外からの客観的視点を加えることにより取締役会における多様性を高め、モニタリング機能を強化することを目的に、2022年6月28日開催予定の株主総会に付議することを決定しました。

取締役会ならびに監査役会の構成人員は、以下となる予定です。

- ・ 取締役会の構成：9名　うち社外取締役3名
- ・ 監査役会の構成：3名　うち社外監査役2名

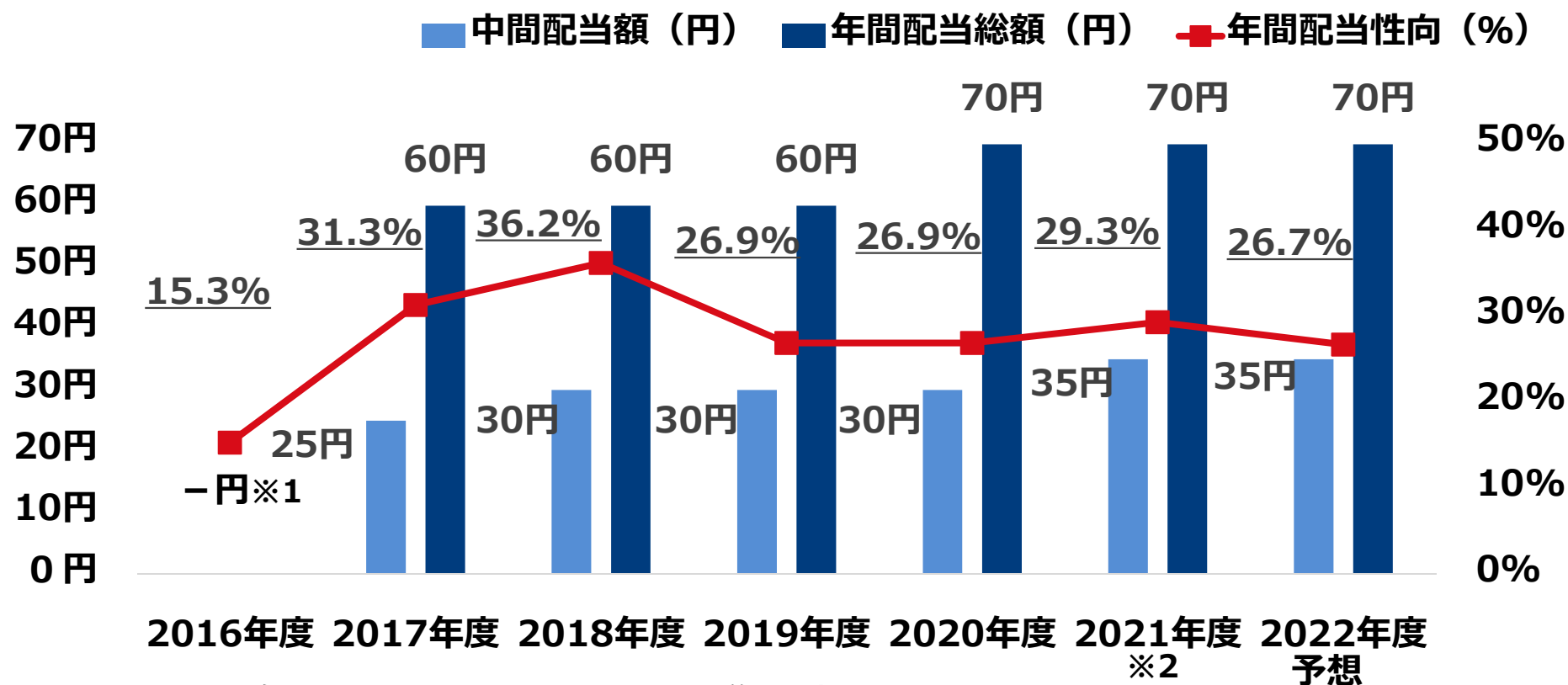
コーポレートガバナンス体制のさらなる強化を図ってまいります。

5. 株主還元・その他

5 株主還元に関する指標

成長投資とのバランスを鑑みながらステークホルダーの皆様の期待に応えるべく、配当性向30%超を目指しつつ、安定した株主還元を実施してまいります。

一株あたり配当額・配当性向推移(連結)

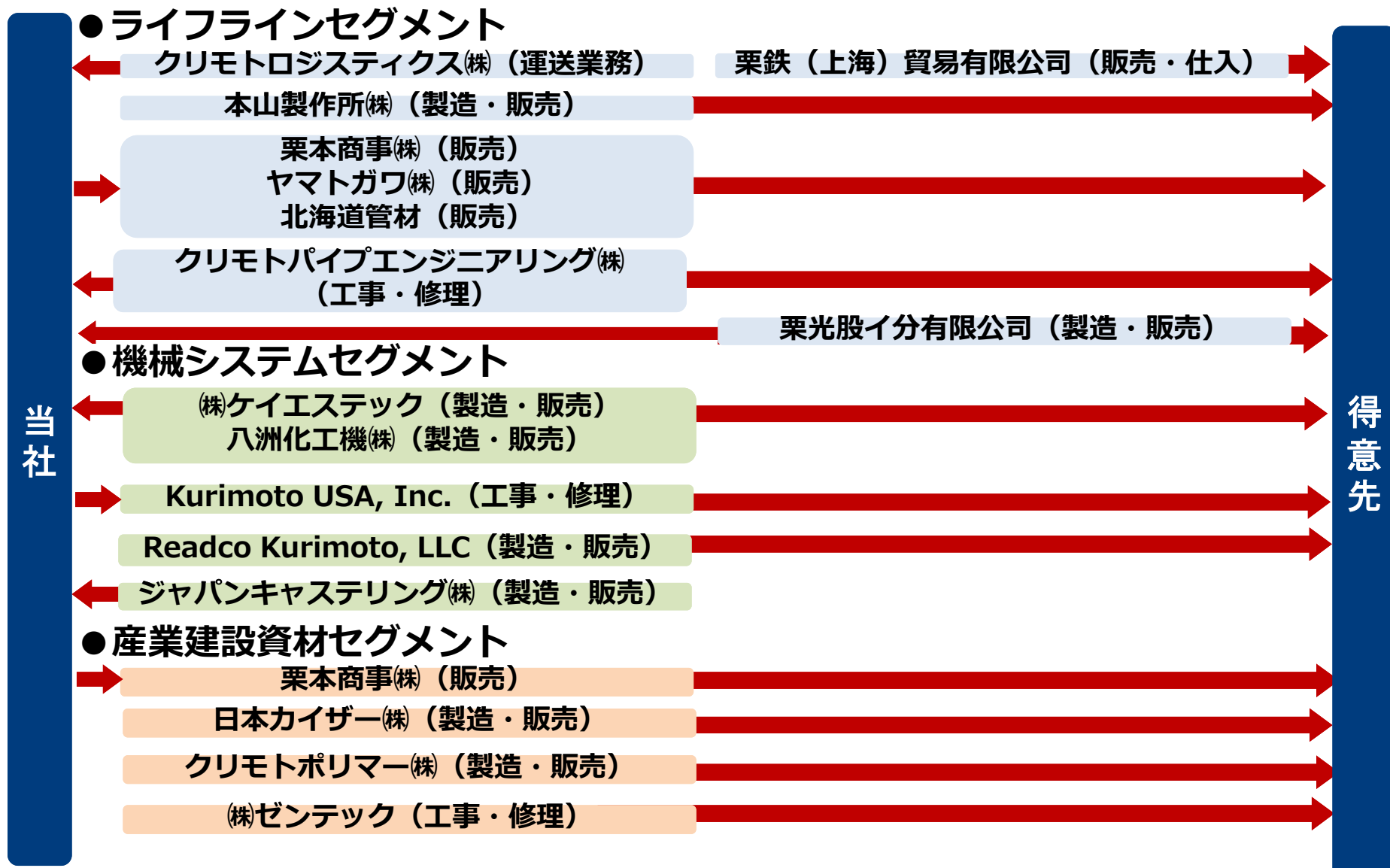


※1 2016年10月1日を効力発生日として当社普通株式について10株を1株に併合。
2016年度の年間配当額合計は単純に合算できないため「-」として表示しています。

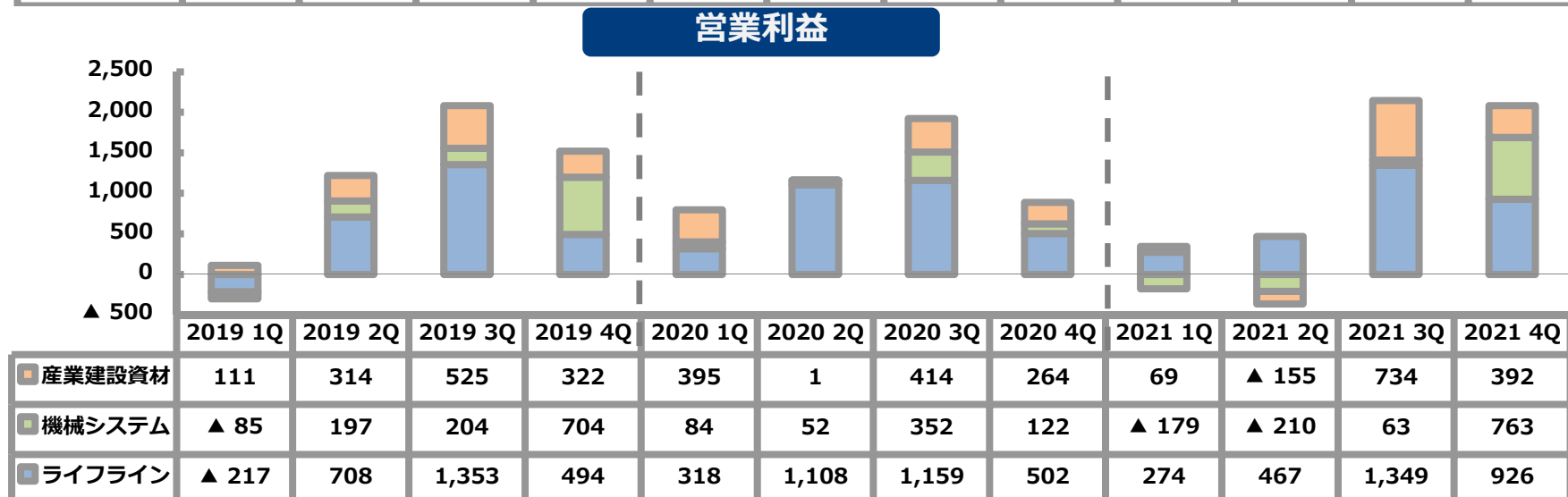
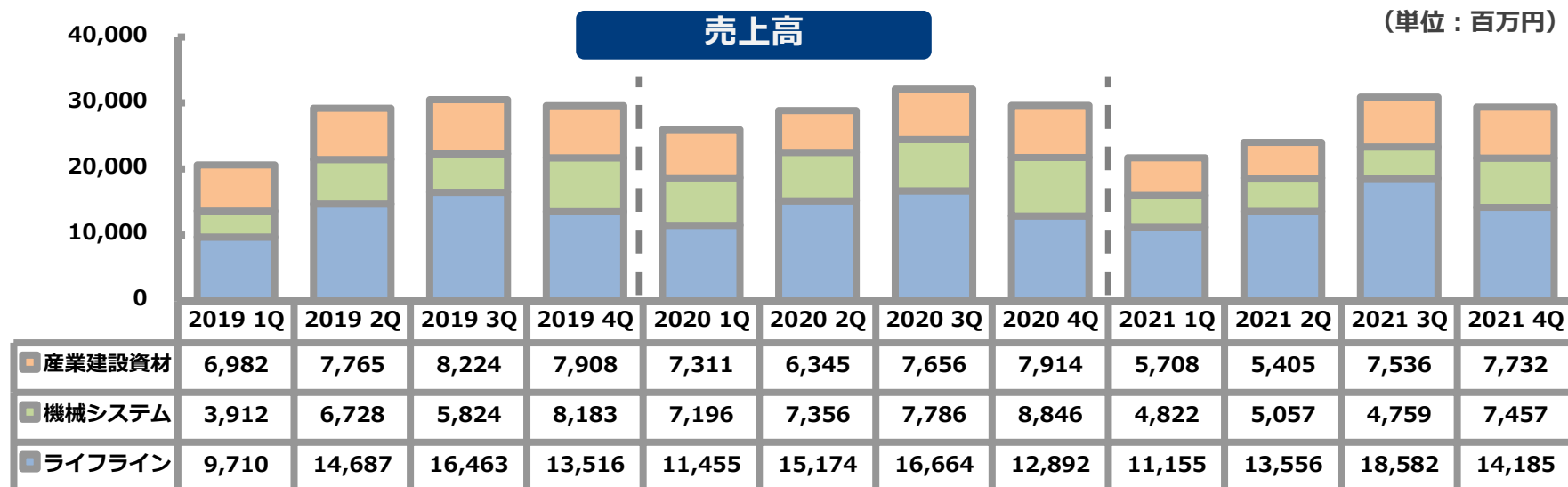
※2 2022年6月28日実施予定の株主総会にて決議

参考資料

参考資料 1 関係会社



参考資料 2 セグメント四半期別推移 (連結)



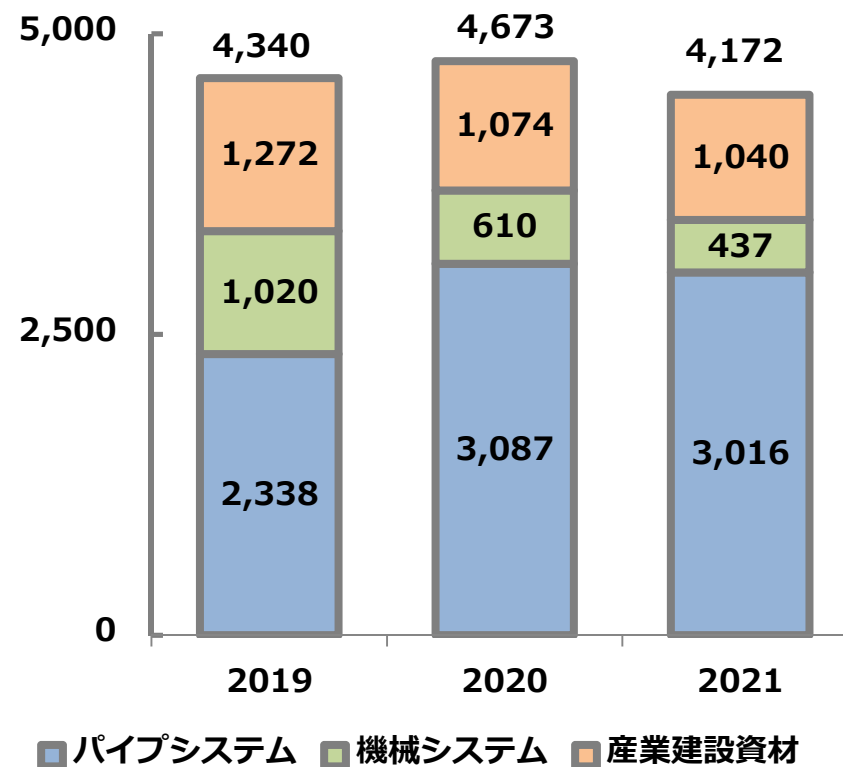
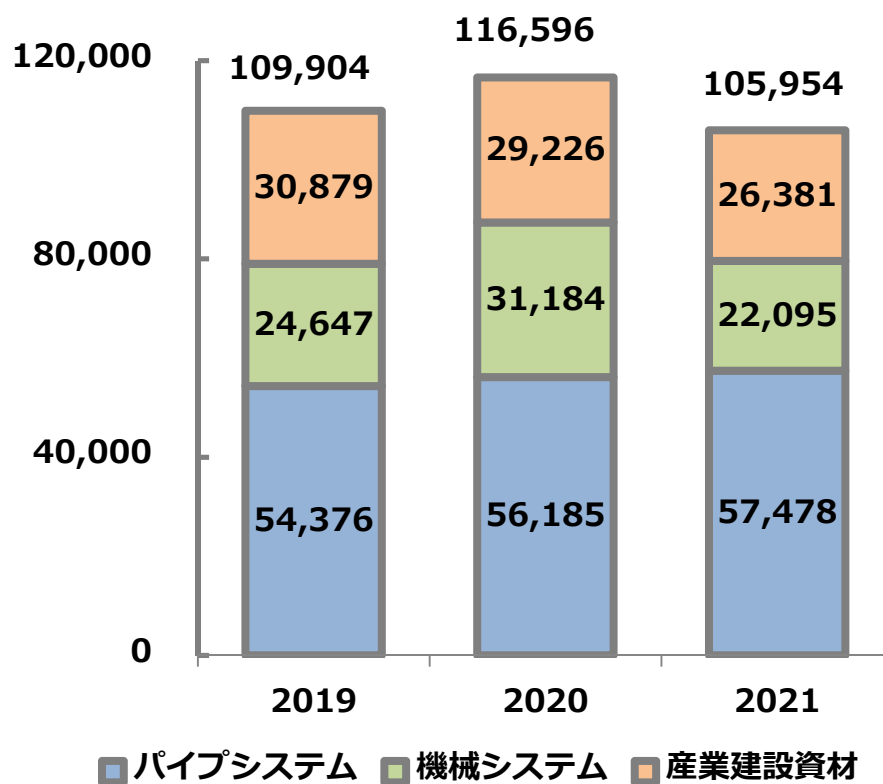
※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

参考資料3 セグメント別業績推移

(単位：百万円)

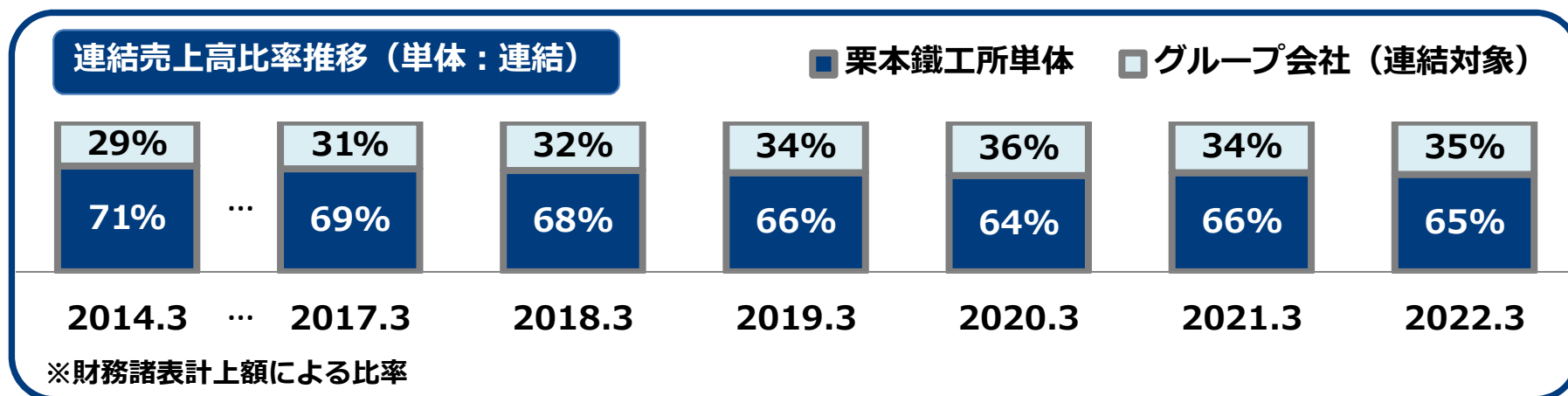
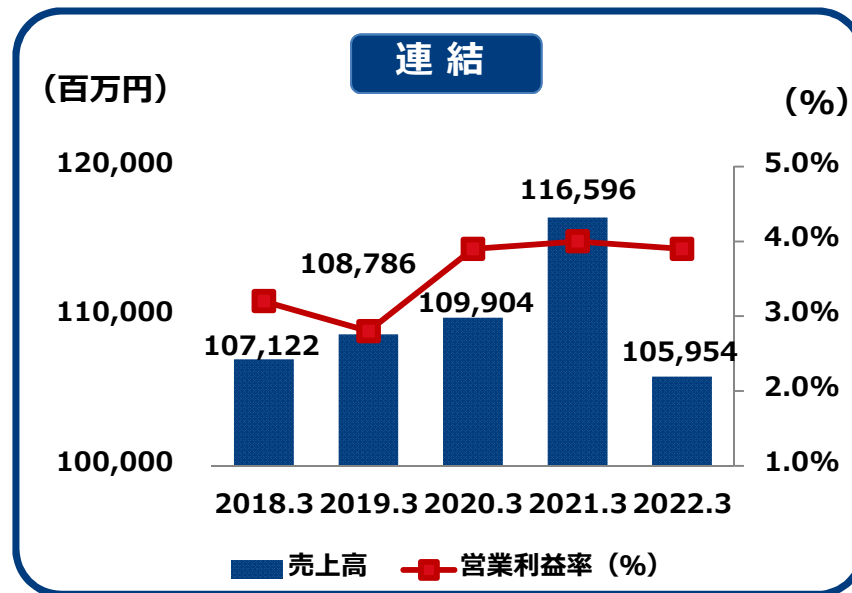
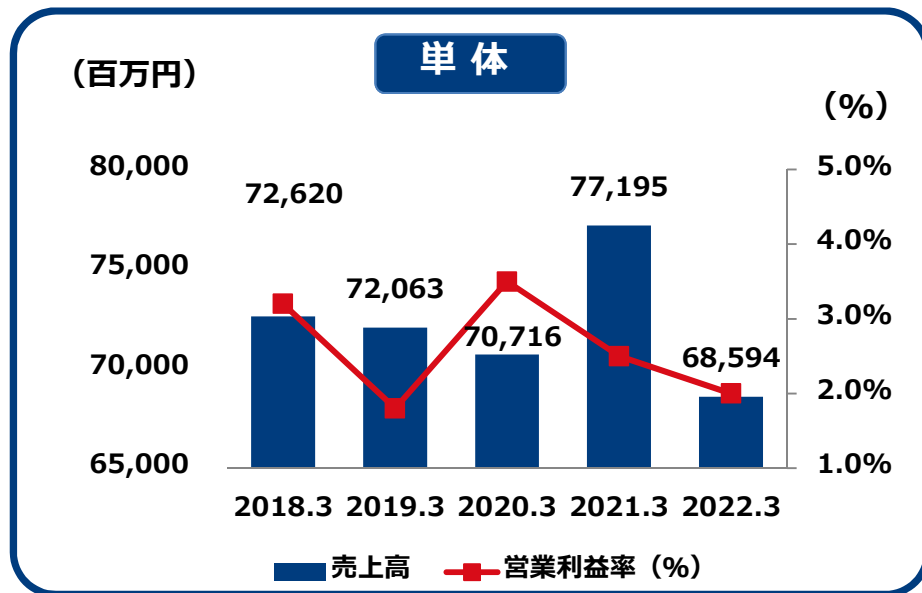
売上高

営業利益



※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

参考資料 4 売上・営業利益率推移 (単体・連結)

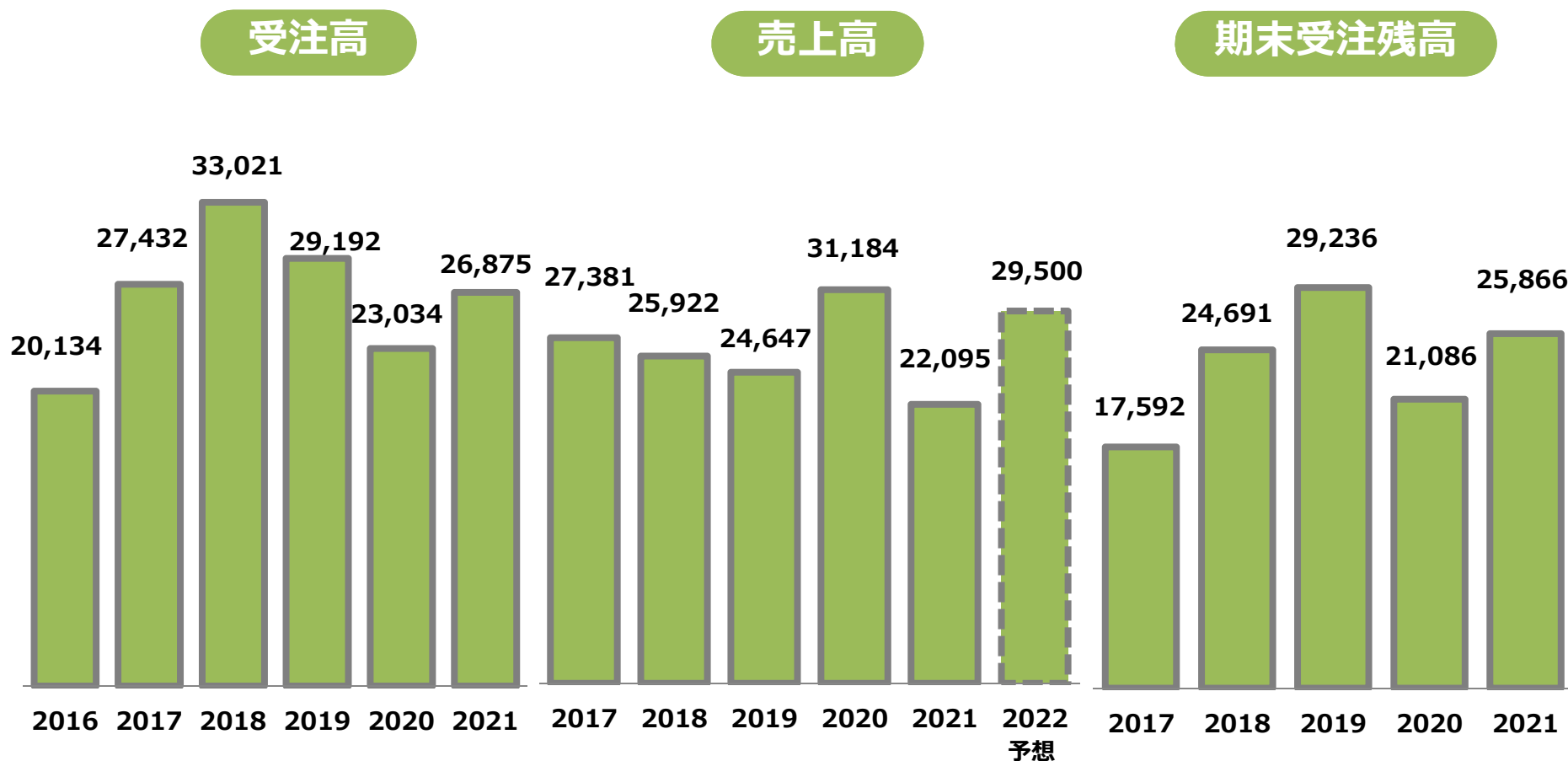


参考資料 5 機械Sセグメント受注・売上の傾向

他セグメントに比べ受注から売上までのリードタイムが長期

→ 売上高は前年度以前の受注高の影響を受けやすい

(単位：百万円)



参考資料 6 水道管路DB方式 受注実績

● 水道管路DB（設計・施工一括発注）方式 主な受注実績

1. 長野県 小諸市

（2019年度受注・2022年度竣工予定）

事業名称：送配水管更新業務
（丸山排水池～坂の上配水池）

契約者：栗本鐵工所

事業規模：3.9億円

2. 大阪府 泉佐野市

（2020年度受注・2022年度竣工予定）

事業名称：泉佐野市日根野浄水場他
管路更新業務

契約者：栗本鐵工所・泉佐野市水道組合
特定建設工事共同企業体

事業規模：3.1億円

3. 兵庫県 神戸市

（2020年度受注・2022年度竣工予定）

事業名称：中央（東町他）配水本管取替事業
契約者：栗本鐵工所・港建設・安藤建設

特定建設工事共同企業体

事業規模：6.2億円

4. 奈良県 広陵町

（2020年度受注・2021年度竣工）

事業名称：広陵町馬見南配水本管布設
耐震設計・施工業務

契約者：栗本・潮技術コンサル 共同企業体

事業規模：2.5億円

5. 奈良県 広陵町

（2021年度受注・2024年度竣工予定）

事業名称：広陵町配水本管布設
耐震設計施工業務

契約者：村本・栗本・潮技術コンサル共同企業体

事業規模：5.4億円

6. 岐阜県中津川市

（2021年度受注・2024年度竣工予定）

事業名称：中津川駅周辺管路更新事業
契約者：K P E・保母興産・新日本設計グループ
事業規模：4.4億円

※KPE:クリモトパイプエンジニアリング株式会社

<参考> 新事業開発・研究開発 実績例

● SoftMRF® (ナノ粒子分散磁気粘性流体)

ナノサイズの鉄微粒子が滑らかな感触を実現

活用が期待される業界

ハプティクス (感触)

健康機器

医療・福祉機器

安全機器



採用実績

- ・ ハプティクス分野：
(株) バンダイナムコアミューズメント
釣りVR「GIJESTA」
- ・ 福祉機器分野：
橋本義肢製作 (株) 「MR-AFO」 (下肢装具足継手)



<参考> 新事業開発・研究開発 実績例

クリモトコンポジットセンター (滋賀県東近江市 当社湖東工場内)

延床面積：約2,300㎡

対応製法：Carbon-LFTDシステム

ハイサイクルRTMシステム、引抜成形

主な設備：10MN油圧プレス、4.7MN油圧プレス

三次元測定システム



Carbon-LFTDデモライン

● CFRP (炭素繊維強化プラスチック) 量産技術の開発拠点

国内民間初のデモプラント

成形品 (パーツ) から製造設備 (プロセス) まで顧客のニーズに対応可能

【活用が期待される業界】

自動車・鉄道



エネルギー・電力



建築・土木



工業製品



資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

問い合わせ先
株式会社栗本鐵工所 総合企画室
TEL:06-6538-7719
<http://www.kurimoto.co.jp/>

KURIMOTO

KURIMOTO